

平成 29 年度からまちづくり協議会を設立する 4 地区から意気込みを聞きました。

雲浜地区 — 地域づくりを軌道に乗せて 次世代へと引き継ぎたい

雲浜コミュニティ協議会の設立にあたり、みんなが連帯・協力する意識を持つてやっていこうと呼びかけました。個人だけが活動しても地域づくりは進みません。人のつながりを大切に、みんなの考えを調和させる場にしていきたいですね。協議会の活動を軌道に乗せて、次の世代に引き継げるように、頑張りたいです。

今、全国的に隣近所との付き合いの希薄化が社会問題になっていきます。協議会では、各団体が協力し、声を掛け合い、行事への参加者を増やすことで横のつながりを生み出し、地域を活性化させていきたいです。



おかもと ひでし
岡本 英司 さん
(73 歳・雲浜一丁目)

松永地区 — 自分たちで考え、自分たちで行動する



かわばた てつお
川畑 哲夫 さん
(67 歳・池河内)

松永地区では、地区まちづくり長期計画に基づき、「自分たちで考え、自分たちで行動する」という理念を持って、地域を盛り上げてきました。自然や文化など地域資源を生かした事業は、協議会に形が変わっても継続していきたいです。

協議会ができたからといって、自動的にまちづくりが進むわけではありません。小学校がなくなり、高齢化も進むという前例のない時代を迎えるに当たり、新しい視点での地域づくり計画を策定する必要があります。特に、外からの交流人口を増やす取り組みに力を入れていきたいですね。

口名田地区 — 老若男女が集い 親睦の輪を広げたい



ちやだに たみ
茶谷 修 さん
(67 歳・谷田部)

口名田地区では、各団体が活発に事業を実施することと、住民同士がコミュニケーションをとる場が増えてきています。2月に口名田ふるさとづくり協議会を設立し、5つの部会に分けて活動を開始します。協議会の発足をきっかけに、既存の事業の更なる充実を図り、住民同士の交流を大きく前進させていきたいです。

これからの地域づくりに、女性や若者の視点も重要です。共働き家庭や育児世代も参加しやすく、楽しみがある活動を増やして、最終的には老若男女が集い、親睦の輪を広げていきたいですね。

加斗地区 — 温故知新の精神で 自発的な動きにつなげる



きむら たけし
木村 武史 さん
(36 歳・上加斗)

協議会の設立をきっかけに、「地域のことを自分たちで考えて良くしていく」という自発的な動きにつなげていきたいです。地域では多くの団体が活動していますが、お互いにやっていることを知らないことがあります。協議会を連携の場として横のつながりを強くしていきたいと思っています。

加斗地区は面積が広く、まとまりにくい側面もありますが、地域ごとに特色があり、新しいことをできるフィールドがたくさんあるのが魅力です。「温故知新」の精神で、まちづくりに取り組む人を増やしていけるように頑張りたいです。



これからの地域づくり — 人が輝く場所へ —

地域の公民館を拠点にした新しいコミュニティの形「まちづくり協議会」がスタートしてから2年。平成 29 年度からはこれまでの 6 地区に、新たに設立する 4 地区が加わり、10 地区で協議会によるまちづくりが行われます。

■問い合わせ 市民協働課 ☎ 64・6009

地域の現状と課題

近年、人口減少や少子高齢化、地域のつながりの希薄化が深刻な社会問題となっています。それに伴い、各地で自治会やまちづくり団体の弱体化が進み、担い手や後継者不足が大きな課題となっています。

一方で、社会の成熟に伴い、まちづくりに対する意識が高まり、自分たちのまちは自分たちでつくるという動きにつながっています。

協働のまちづくり

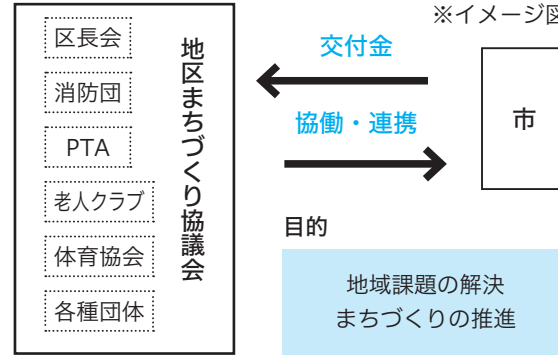
社会の多様化が進むなか、市民や団体、事業者、行政など多様な担い手が協力してまちづくりを行う手法が「協働」です。

真に住みよいまちづくりを進めるために、住民が、自ら住む地域の課題について考え、地域資源を生かしたまちづくりに取り組むことを目指すものです。

「まちづくり協議会」とは

まちづくり協議会とは、地域・住民主体のまちづくりを進める組織です。

これまで個別に活動していた団体が連携することで、マンパワーの増加が期待できます。また、多様な立場の住民が、事業や計画の企画段階から参画する機会が増えることにもつながります。地域の実情やニーズに合わせて、課題解決に向けて、柔軟な組織運営も可能になります。

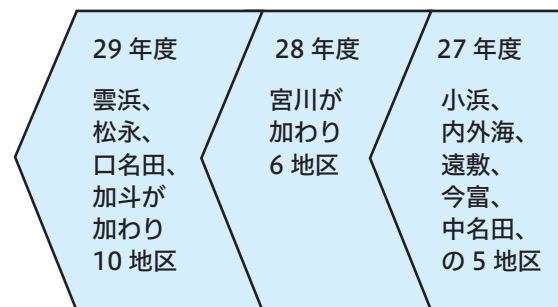


10 地区で協議会がスタート

市では、公民館を拠点にした「地域協働型まちづくり事業」を実施。平成 27 年度は、小浜・内外海・遠敷・今富・中名田の 5 地区、28 年度は宮川を加えた 6 地区のまちづくり協議会が、モデルとしてまちづくりに取り組みました。

29 年度からは、「ふるさと未来づくり協働推進事業」として、これまでの 6 地区に、雲浜、松永、口名田、加斗を加えた 10 地区で取り組みが進んでいきます。

※まちづくり協議会設立の流れ



地域活性化への機運が高まっている。宮川の良さに磨きをかけて伝えたい。

「1 年間の活動を終えて」

宮川まちづくり協議会

会長 澤田 康夫 さん
(64 歳・竹長・写真右)

渡邊 美和 さん
(54 歳・加茂・写真左)



澤田 協議会ができたことで、地域活性化への機運は高まっています。昨年の「宮川ひまわり祭り」は、若い世代も参加して、これまでより規模を拡大し



宮川ひまわり祭りを開催 (8月21日)

「まちづくり協議会の設立により変わったところは？」
澤田 宮川地区では平成12年に長期計画を策定し、各団体がとても活発に地域づくりに取り組んできました。協議会は、それらを取りまとめる形で、活動を継続し、改善できるところはしようという意識を持って取り組んでいます。渡邊 新しい組織になったことで、行事によつては、どこが中心になって動くか分からなくなるときもありました。今後は、役割分担を明確にしていきたいですね。

て開催できました。次代を担う若者の参加・育成をさらに進めていきたいです。
「若い世代の参加に必要なことは？」
澤田 地域の20代有志でつくる宮川青年クラブが頑張っています。若者が声をあげやすい環境づくりに取り組んでいます。渡邊 若者が常に集まり、交流や企画ができる拠点があればいいのでは。将来、宮川小学校の跡地が、そんな場所になればいいと思います。

澤田 今年、新成人と意見交換をする場を持ちました。市外に出ている子も地域への愛着は持ち続けてくれています。渡邊 みんなが家族のような雰囲気を作っている地域には、若者も戻ってきているように思います。宮川でも十分にその可能性があります。
「宮川地区の魅力と課題は？」
渡邊 魅力は、人柄が良く、住みやすいところです。澤田 自然や伝統行事など、誇れる素材はいくらでもあります。今のままの宮川の良さに磨きをかけて、より多くの人に伝えていきたいです。渡邊 行事を手伝うのが一部のの人になることも。そうなるのと「やらされている感」が出て、負担に感じる人もいるのでは。澤田 地域の役がまわってきた人たちだけでやるのは限界がある。「宮川を良くしたい」、「地域は自分たちで考えてつくる」というボランティア意識を根付かせていきたいですね。

【協働のまちづくりを進めるために、各地区のまちづくり協議会への参加・協力をお願いします】



旭座音楽こけら落としライブ (5月22日)

小浜地区まちづくり協議会では、昨年5月に「まちの駅・旭座」のオープニング事業を実施しました。防災や福祉など6つの部会もそれぞれ活動が活発になってきました。地域でさまざまな活動を頑張つてきている人、団体の横のつながりの大きさを感じた2年間でした。



小浜地区まちづくり協議会
代表 木下 弘明 さん
(56 歳・駅前町)



内外海地区まちづくり協議会
会長 川代 雅和 さん
(58 歳・西小川)

「内外海が大好き」という将来の担い手となる大切な子どもたちが安心して住めるまちづくりを目指しています。



うちとみカキまつり (2月26日)



遠敷地区コミュニティ協議会
会長 赤坂 登紀雄 さん
(65 歳・国分)

協議会を立ち上げた効果として、各種団体の幅広い連携が更に促進され、主要行事を多くの人の協力のもと実施できました。また、地区の今後の課題を長期的に協議する場としての位置づけができたことがよかったです。今後、協議会で地区の活性化に取り組みます。



遠敷ふるさとまつり (11月6日)



今富まちづくり協議会
会長 一圓 敏彦 さん
(78 歳・多田)

今富地区は、4つの部会で活動を進めてきました。活動内容は、公民館を取り巻くすべての活動を対象にして進めましたが、あまりにも範囲が広いため、大変でした。反省点としては、活動の範囲をもう少し絞つて、より多くの方に参加してもらえるようにすべきと考えます。



ペットボトルツリー (11月～1月)



田村のゆめづくり協議会
代表 坂下 憲治 さん
(55 歳・上田)

田村のゆめづくり協議会を立ち上げてからの2年間で、スマイルカーの運行・除雪・草むしりなどのボランティア活動が、小学生からお年寄りまでを含めて、定着してきました。今後もこのような活動を中心として、地域総動員で、中名田の活性化を目指します。



なかなたスマイルカー (通年)